

考古学から見た播磨町の遺跡や出土品など、文化財のよもやま話をお届けします。

播磨町 むかし昔

その五 古代東播磨と住吉神社②

前号に引き続き、当地域が住吉大社の支配下に入った時期を考えてみます。古墳時代の5世紀代、播磨は加古川地域を中心に、吉備の勢力が強く入りこんでいました。しかし、雄略天皇が亡くなると、天皇と吉備の女性（稚媛）との間に生まれた星川皇子の反乱（吉備氏三反乱の一つ）が起こります。鎮圧後、皇子のために援軍を用意した吉備の豪族は、播磨（賀茂）の山林資源を大和（倭）の王権に奪われたという伝承が『日本書紀』清寧即位前紀条にみえます。大和王権による「わゆる」吉備つぶし」で、上道臣や下道臣の子孫が力をそがれていったのです。

6世紀に入ると継体天皇の即位とともに、王権と密接に繋がった尾張宿禰氏が播磨にも入ってきました。この辺りのことが、『播磨国風土記』飴磨郡貽和里条には火明命として書かれています。

るようです。次に、津守氏（住吉大社は尾張氏と同祖とする伝え（『新撰姓氏録』撰津国神別条「津守宿禰、尾張宿禰と同祖なり。火明命の八世の孫、大御日足尼の後なり」）が重要な鍵になります。先祖が同じと信じる結びつきで、津守氏も入ってきたのでしよう。山城国の賀茂氏と秦氏に近い関係が想定できます。

また、6世紀の初頭に播磨に入り込んだのは、同じく継体天皇に后妃を出した息長氏で、これが『播磨国風土記』に見る息長帯比売（神功皇后）伝承なのです。しかし、考古学的には明石郡の逸文にあった「速鳥」は準構造船の古墳時代の古い時期の船で、「儀装・出陣」の儀礼を表現した埴輪も、三重県松阪市の古墳時代中期の宝塚1号墳（国指定の重要文化財）に出土例があり、年代は遡るかも知れません。

【問合せ】播磨町郷土資料館 学芸員 大平 茂
☎ 079 (435) 5000



住吉大社神代記巻末部分（住吉大社蔵 重要文化財）
田中卓『住吉大社神代記の研究』から

この後、奈良時代になって津守氏は、尾張氏と入れ替わり当地を完全に支配下に置いたのでしょうか。そう捉えらるると、『住吉大社神代記』の成立年を実際の9世紀末以降としない、天平3（731）年と奥付したこととも整合します。その結果、住吉大社の支配下になった鴨波里（淡葉郷）は、740年頃に住吉郷に変わることとなりました。さらに、不思議なのは中世になると、何故か最初の「阿閑荘」に戻っているのです。

町の人口 8月1日現在

住民基本台帳人口（ ）は前月比

34,754人 (+18人)

男…17,000人 (-11人)
女…17,754人 (+29人)

世帯数…14,366世帯 (+15世帯)